# アカデミック・ジャパニーズに求められる語彙知識とは
## ― 2-4 級語彙・文法事項の重要性 ―

山 本 富 美 子
立命館アジア太平洋大学

### 要旨

専門教員には難解な専門語彙の指導が日本語教育の要であるという認識が強く、専門課程に進む前段階の日本語教育に対して専門語彙指導を望む声が強い。そこで、本稿では、アカデミック・ジャパニーズの音声･文字言語素材に使用されている語彙･文法事項の量的・質的分析を行い、専門課程へ移行する前段階の日本語教育における語彙指導の指針を得るべく検討を行った。その結果、アカデミック・ジャパニーズの素材には 2-4 級の語彙・文法事項が延べ語数、異なり語数ともに多く用いられ、専門語彙を含む難解な語彙は少ないことが明らかになった。また、2-4 級の語彙・文法事項は、専門語彙を含む難解な語彙の説明用語として繰り返し使用されるとともに、アカデミックな言語表現の基本的語彙になっていると見られた。このことから、アカデミック・ジャパニーズには専門語彙より 2 級以下の基本的語彙・文法知識の運用能力、および専門語彙をはじめとする難解な語彙に対処するためのスキルの養成のほうが重要であると考えられた。

### キーワード

アカデミック・ジャパニーズ(AJ)、専門語彙、日本語能力試験、文字・語彙試験、2-4 級語彙

### 目次

１．はじめに
２．アカデミック・ジャパニーズ（AJ）音声言語の特徴
　2.1　言語的情報に大きく依存
　2.2　1 文中の平均文節数
３．AJ 素材に使用される語彙・文法事項
　3.1　音声言語素材の級別構成
　3.2　文字言語素材の級別構成
　3.3　日本語能力試験の読解・聴解試験テキストの級別構成
　3.4　日常会話素材の級別構成との違い
４．級別語彙･文法事項の特徴と用法
　4.1　国際交流基金他（2002）の選定方法および基準
　4.2　4 級:日常生活のための基本語・基本文法
　4.3　3 級:論理的・分析的表現のための基本語・基本文型
　4.4　2 級: AJ の基本的な「一般教養的語彙」
　4.5　1 級:高度な「一般教養的語彙」
　4.6　級外:特殊語彙と専門的語彙
５．おわりに

## １．はじめに

大学・大学院の専門分野で使用される専門語彙は、理系・文系の違いに止まらず、各分野の専門領域の間で大きく異なり、分野別用語集も出ている。また、日常的には使用されない漢語とカタカナ語が多くて日本人にとっても難解であるという意識が強いため、言語教育に関するアンケート調査では、日本人からも留学生からも専門語彙の困難さが強調される。特に専門教員の間では、専門分野の難解な語彙指導が日本語教育の要であるという認識が共有されており、専門課程に進む前段階の日本語教育に対して専門語彙指導を望む声が強い[1)]。しかし、山本(2004b)では、学習者のアカデミック・ジャパニーズ[2)](以下、AJ と称す)の理解・発話能力と高度な語彙知識とは必ずしも一致せず、AJ は論理的・分析的思考能力により深く関与していることを報告している。

そこで、本稿では AJ の音声･文字言語素材に使用される語彙･文法事項の量的・質的分析を行い、AJ に必要とされる語彙知識について検討する。

## ２．アカデミック・ジャパニーズ（AJ）の音声言語の特徴

語彙分析に入る前に、まず AJ の音声･文字言語素材はどんな言語的特徴をもっているのか、特に AJ の音声言語素材について、その認定基準を考える。

AJ の素材というと、専門分野の教科書・文献をはじめとする文字言語がまず考えられるが、専門的内容について話される対談、講演、講義、研究発表などの音声言語も AJ の重要な部分を占める。しかし、こうした音声言語は従来日常会話も含む「話し言葉」として、一括りにされてきた。区別したとしても、「書き言葉的な話し言葉」とされているだけで、AJ の素材と認定する基準は、管見によれば、内容的に専門性を備えているといった点を除いて特にないと思われる[3)]。そこで、語彙分析を行う前に、まず、内容的に専門性をもつ音声言語が日常会話とどう異なるのか、また書き言葉的な音声言語と言われる言語的特徴は何か考えてみよう。

以下に示す、(1)対談、(2)講演、(3)講義は専門的内容を含む AJ 素材で、(4)テレビドラマは自然発話ではないが、日常会話的性格の強い素材である。これら 4 種の素材の言語的・非言語的情報量、および 1 文に含まれる平均文節数を表 1 に示し、AJ の音声言語の特徴を考える。

(1)対談：テレビ対談

「筑紫哲也ニュース 23 自衛隊海外派遣−法文・運用ここが問題」(1992.3.14 収録)（21 分 15 秒）

(2)講演：テレビ講演

「森林交付税フォーラム 梅原猛基調講演」(1993.3.8.収録)　（12 分 46 秒）

(3)講義：大学の学部学生に対する 1 講義科目

「環境政策」(1 コマ 90 分の講義の前半 29 分)

(4)テレビドラマ「精神力～世にも奇妙な物語～」(1992.4.28 収録)（14 分 32 秒）

表１　AJ の音声言語の言語的・非言語的情報量と平均文節数

| | | 放送（講義）時間 | 視覚情報を伴った言語的情報量（%） | 視覚のみの情報量（%） | １文中の平均文節数 |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) | 対談 | 21 分 15 秒 | 20 分 30 秒（96.5%） | 45 秒（3.5%） | 12.4 文節 |
| (2) | 講演 | 12 分 46 秒 | 12 分 13 秒（95.7%） | 33 秒（ 4.3%） | 7.8 文節 |
| (3) | 講義 | 29 分 | 28 分 20 秒(ほぼ 100%) | 0(0) | 23.5 文節 |
| (4) | ドラマ | 14 分 32 秒 | 9 分 41 秒（66.6%） | 4 分 51 秒（33.4%） | 3.3 文節 |

## 2.1　言語的情報に大きく依存

表 1 から、(1)-(3)の AJ の音声言語素材と(4)の日常会話的な音声言語素材とでは、視覚のみの情報量の割合において大きな違いが見られる。

テレビドラマの日常会話的素材では、視覚のみの情報量が全体の 3 割を占めている。視覚情報には、話者と聴者を取り巻く場面、位置関係などの場面・状況や、話者と聴者の性別・年齢などの属性を示す特徴および動作・表情などの非言語的情報が含まれる。また、日常会話的素材では視覚情報を伴った言語メッセージも、話者自身の動作・表情、音声に付随するパラ言語的情報が言語的情報以上に大きい。つまり、日常会話的音声言語素材は、言語的情報が言語以外の場面・状況や非言語的情報やパラ言語情報に大きく依存し、時として言語的情報とまったく異なる意味内容を伝える場合さえある [4)]。この非言語的情報やパラ言語的情報は、言語的情報を補完し理解を促進する機能を持つ一方で、逆にそれらの情報の意味を理解していない学習者には、言語的情報は理解できているのに全体理解が妨げられて誤解する可能性も生じる。

それに対して、AJ 素材では視覚のみによる情報量は極めて少ない。対談も講演も 1 分以下、講義はほとんどなし、つまり話しっぱなしの状態である。もっとも最近では、講義でも映像資料が多く用いられるようではあるが、話しっぱなしの講義はまだ主流を占めている。また、テレビ放映される対談や講演の場合は、談話内容の背景知識的説明となる映像が同時に流されることも多い。しかし、AJ 素材では話者自身が伝えるパラ言語的情報量は日常会話的素材に比べると格段に少ない。それは、AJ の発話は、そもそも、話者の個人的な感情を伴うようなパラ言語的情報は可能な限り抑制し、言語的情報によって客観的・普遍的に描写することを目的とするものであるからだと言えよう。つまり、この点において、AJ の音声言語素材は日常会話とは大きく異なり、文字言語による書き言葉的性質と共通する特徴を持っていると言える。特に、大学の講義は、講義者によって異なるものの、非言語的・パラ言語的情報への依存度が最も小さい上に、配布資料・板書による文字言語情報の提供も少ない場合があり、音声を媒体とした言語的情報への依存度が最も高いジャンルであると考えられる。

以上、AJ の音声言語素材は、非言語的・パラ言語的情報への依存度が低く、音韻・語彙・文法事項などの言語的情報が大きな比重を占めているという点において、日常会話的素材とは大きく異なり、この点が AJ の大きな 1 認定基準であると考えられる。

## 2.2　１文中の平均文節数

さらに、表１から、(1)-(3)のAJと(4)の日常会話的な音声言語素材とでは、１文中の平均文節数が大きく異なることがわかる。特に、大学２年生を対象とした(3)の専門科目の講義では、１文あたりの平均文節数が23.5で最も長い。次に長いのは、(1)の、ニュース・キャスター筑紫哲也と軍事評論家が自衛隊の海外派遣の違憲性を検証する対談で、平均文節数12.4である。

講義と対談は、１文当たり 18.8 文節（国語国立研究所 1955）とされる新聞の文の長さに匹敵する。しかし、対談には応答表現のような短文も多く交ざっていることや、文要素の繰り返しから他の要素の挿入なども多くあることを考えると、むしろ新聞より長く、講義と同じぐらい長文が多いと考えられる。これは、平均文節数 3.3 の(4)テレビドラマと比べると、4-8 倍の長さである。このテレビドラマの文節数は、国立国語研究所（1955, 1980）が行った話し言葉の平均文節数、3～4 文節とほぼ一致していることから、日常会話的素材の平均的な文節数であると言えよう。

一方、(2)の講演は、梅原猛が森林組合の人々を対象に行った実際の講演をテレビ中継したもので、１文の平均文節数は 7.8 文節である。テレビドラマより長いが、講義や対談ほどではない。この講演は、森林組合の人々を対象とした実際の講演をテレビ中継したもので、特に専門的な内容ではない。講演者と聞き手は場を共有し、話題・関心および森林を守りたいという感情的な部分で共感するところが多いためか、講演者と聞き手との心理的距離が近く、テレビ対談より日常会話的性質が強いと言える。

以上、1 文中の平均文節数は、対談や日常会話などの「対話」形式か、講義や講演などの「独話」形式かといった違いよりも、特定の専門的内容をもつかどうかという点のほうが強く影響し、AJの音声言語素材は１文中の平均文節数が文字言語素材に匹敵するほど多いことを示した。この点も、AJの大きな認定基準となるであろう。

## ３．AJ素材に使用される語彙・文法事項

前述したように、AJ素材は言語的情報に大きく依存している。では、こうした特徴をもつAJの運用には、どの程度の言語的知識が必要とされるのか。日本語教育のレベル別語彙分類[5)]によりAJ素材自体に使用されている語彙・文法事項の級別構成を見ることで、必要な語彙知識について検討する。なお、ここでは文法事項も語として扱う。

### 3.1　音声言語素材の級別構成

まず、前章で取り上げた(1)対談、(2)講演、(3)講義に加えて、以下に示す２つの研究発表(5)、(6)の音声言語素材に使用されている語彙の級別構成を表２に示す。

(5)研究発表 1: 話し言葉コーパス「研究発表 A01f0067」(2001)

(6)研究発表 2: 話し言葉コーパス「研究発表 A01f0019」(2001)

表2から、AJの音声言語素材には4級語彙が最も多く使用されていることがわかる。延べ語数で 5-6 割、異なり語数でも 3-4 割の高頻度である。続いて、２級語彙の使用率が高く、延べ語数で２割程度、異なり語数では全体のほぼ３分の１を占めている。特に、AJ素材としての特徴を強く持つ講義、対談、研究発表では、異なり語数で２級

語彙の占める比率が高い。3 級語彙も入れると、2 級以下の語彙は延べ語数で 9 割、異なり語数でも 7-8 割を占めている。

級外とされた語彙は延べ語数では少なく、1 割未満である。異なり語数でも 2 割を超えることはない。これらの級外語彙がどんな語彙なのかについては、後の 4.6 で述べる。

表 2　AJ の音声言語素材に使用される語彙の級別構成

(1) 対談:筑紫哲也ニュース 23「自衛隊海外派遣-法文・運用ここが問題」

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 5090 | 301 | 168 | 820 | 520 | 3281 |
| 延べ語数の級別割合 | 100% | 5.9% | 3.3% | 16.1% | 10.2% | 64.5% |
| 異なり語数 | 1000 | 178 | 98 | 301 | 153 | 270 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 17.8% | 9.8% | 30.1% | 15.3% | 27.0% |

(2) 講演:「森林交付税フォーラム：梅原猛基調講演」

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 1040 | 74 | 28 | 141 | 102 | 695 |
| 延べ語数の級別割合 | 100% | 7.1% | 2.7% | 13.6% | 9.8% | 66.8% |
| 異なり語数 | 320 | 45 | 21 | 79 | 45 | 130 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 14.1% | 6. 6% | 24.7% | 14.1% | 40.6% |

(3) 講義:学部学生に対する 1 講義科目「環境政策」

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 4628 | 139 | 142 | 768 | 626 | 2953 |
| 延べ語数の級別割合 | 100.0% | 3.0% | 3.1% | 16.6% | 13.5% | 63.8% |
| 異なり語数 | 716 | 90 | 60 | 234 | 105 | 226 |
| 異なり語数の級別割合 | 100.0% | 12.6% | 8.4% | 32.7% | 14.7% | 31.6% |

(4) 研究発表 1:話し言葉コーパス 2001「研究発表 A01f0067」

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 3248 | 255 | 133 | 560 | 361 | 1939 |
| 使用率 | 100% | 7.9% | 4.1% | 17.2% | 11.1% | 59.7% |
| 異なり語数 | 396 | 69 | 25 | 127 | 59 | 116 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 17.4% | 6.3% | 32.0 % | 14.9% | 29.3% |

(5) 研究発表 2:話し言葉コーパス 2001「研究発表 A01f0019」

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 2807 | 263 | 152 | 511 | 334 | 1547 |
| 使用率 | 100% | 9.4% | 5.4% | 18.2% | 11.9% | 55.1% |
| 異なり語数 | 455 | 81 | 36 | 132 | 59 | 147 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 17.8% | 7.9% | 29.0% | 13.0% | 32.3% |

### 3.2 文字言語素材の級別構成

では次に、文字言語素材に使用されている語彙構成を見てみよう。分析に用いたのは、以下に示す 2 素材である。

(6) 新聞の囲み記事:「夢の新居は『シックハウス』」朝日新聞 2000 年 5 月 7 日付け

(7) 新聞の論壇:土居征夫「日本企業とアジアからの留学生」朝日新聞論壇 1999 年 6 月 9 日付け

表 3　文字言語素材に使用される語彙の級別構成

(6) 新聞の囲み記事

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 921 | 85 | 44 | 127 | 87 | 578 |
| 使用率 | 100% | 9.2% | 4.8% | 13.8% | 9.4% | 62.8% |
| 異なり語数 | 377 | 71 | 30 | 90 | 59 | 127 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 18.8% | 8.0% | 23.9% | 15.6% | 33.7% |

(7) 新聞の論壇

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 910 | 91 | 86 | 186 | 87 | 460 |
| 使用率 | 100% | 10.0% | 9.5% | 20.4% | 9.60% | 50.5% |
| 異なり語数 | 339 | 62 | 56 | 100 | 45 | 76 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 18.3% | 16.5% | 29.5% | 13.3% | 22.4% |

表 3 の(6)、(7)の文字言語素材でも、4 級語彙が最も多く使用されている。延べ語数で 5-6 割、異なり語数でも 2-3 割である。続いて、2 級語彙の使用率が高く、延べ語数で 10-20%、異なり語数では 24-30%を占めている。文字言語と 3.1 に示した音声言語の語彙構成との間には大きな違いは認められず、2-4 級の語彙が延べ語数で 8-9 割、異なり語数でも 7 割を占めていることがわかる。級外語彙も音声言語と同様、延べ語数で 1 割、異なり語数でも 2 割未満である。

### 3.3 日本語能力試験の読解・聴解試験テキストの級別構成

次に、1-3 級の日本語能力試験の読解試験と聴解試験に用いられているテキストの語彙構成を表 4 に示す。

表 4 から、読解・聴解試験ともに 1 級の試験でも 1 級語彙の使用率は低く、4 級語彙の使用率が最も高いことがわかる。

表 4　1-3 級日本語能力試験の読解・聴解試験テキストの語彙構成

(8) 1 級(1993)読解問題素材

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 3499 | 168 | 130 | 531 | 461 | 2209 |
| 使用率 | 100% | 4.8% | 3.7% | 15.2% | 13.2% | 63.1% |
| 異なり語数 | 813 | 116 | 71 | 250 | 128 | 248 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 14.3% | 8.7% | 30.8% | 15.7% | 30.5% |

(9) 1 級(1993)聴解問題素材

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 4659 | 189 | 83 | 429 | 496 | 3462 |
| 使用率 | 100.00% | 4.1 | 1.8 | 9.2 | 10.6 | 74.3 |
| 異なり語数 | 991 | 109 | 57 | 237 | 197 | 391 |
| 異なり語数の級別割合 | 100.10% | 11 | 5.8 | 23.9 | 19.9 | 39.5 |

(10) 2 級(1993)読解問題素材

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 2968 | 117 | 93 | 371 | 354 | 2033 |
| 使用率 | 100% | 3.9% | 3.1% | 12.5% | 11.9% | 68.5% |
| 異なり語数 | 683 | 84 | 41 | 199 | 117 | 242 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 12.3% | 6.0% | 29.1% | 17.1% | 35.4% |

(11) 2 級(1993)聴解問題素材

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 3436 | 61 | 41 | 273 | 319 | 2742 |
| 使用率 | 100% | 1.8% | 1.2% | 7.9% | 9.3% | 79.8% |
| 異なり語数 | 758 | 41 | 32 | 158 | 149 | 378 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 5.4% | 4.2% | 20.8% | 19.7% | 49.9% |

(12) 3 級(1993)読解問題素材

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 471 | 12 | 0 | 19 | 56 | 384 |
| 使用率 | 100% | 2.5% | 0% | 4.0% | 11.9% | 81.5% |
| 異なり語数 | 171 | 6 | 0 | 10 | 32 | 123 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 3.5% | 0% | 5.8% | 18.7% | 71.9% |

(13) 3 級(1993)聴解問題素材

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 1969 | 8 | 2 | 80 | 189 | 1690 |
| 使用率 | 100% | 0.4% | 0.2% | 3.8% | 9.6% | 85.8% |
| 異なり語数 | 499 | 5 | 2 | 50 | 105 | 337 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 1.0% | 0.4% | 10.0% | 21.0% | 67.5% |

### 3.3.1 読解試験問題のテキスト

1 級と 2 級の読解試験に使用されているテキストは、前述した AJ の音声言語・文字言語の語彙構成と類似している。2 級試験より 1 級試験のほうがやや上級語彙の割合が高いが、級別語彙構成においては大差ない。これは、1・2 級の読解試験のテキストには、自然言語の素材がほとんど手を加えられずに使用されているためであろう。それに比べると、3 級の読解試験テキストは 3 級と 4 級語彙が中心で、1・2 級の語彙はほとんど使用されていない。

この語彙構成からも、1・2 級の読解試験には AJ の自然言語に近いテキストが用いられているのに対し、3 級には語彙的に統制されたテキストが用いられていることがわかる。

### 3.3.2　聴解試験問題のテキスト

聴解試験は、1 級試験のテキストでも AJ 素材や 1 級の読解試験用テキストとは異なり、延べ語数で 3 級語彙のほうが多い。ただし、異なり語数では 2 級語彙のほうが多く、AJ 素材の語彙構成と共通している。2 級の聴解試験は 4 級語彙がより多く、3 級語彙と 2 級語彙はほぼ同じ割合である。一方、3 級の聴解試験は、延べ語数、異なり語数ともに、2 級より 3 級語彙のほうが多くなり、読解試験と同様、3 級と 4 級語彙が中心の構成になっている。

テキストの語彙構成を見る限り、聴解試験は 1 級でも AJ の自然言語とはやや異なる。それは、1 級でも聴解試験用のテキストに日常会話的談話が多く含まれているためであろうと考えられる。

## 3.4　日常会話素材の級別構成との違い

表 5 に、日常会話的素材のテレビドラマの語彙構成を示し、AJ の語彙構成と比較してみよう。

日常会話的素材には、2 級・1 級・級外の難解な語も、延べ語数・異なり語数ともに AJ 素材に劣らず多い。しかし、2 級語彙より 3 級語彙のほうが多く、特に異なり語数では 3 級と 4 級語彙の比重が高まり、6 割も占めている点が日常会話的素材の特徴で、AJ 素材の語彙構成とは大きく異なる。

表 5　日常会話的素材の語彙構成

(4)テレビドラマ「精神力～世にも奇妙な物語～」(1992.4.28 収録)（14 分 32 秒）

| | 総数 | 級外 | 一級 | 二級 | 三級 | 四級 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 延べ語数 | 1214 | 103 | 37 | 172 | 191 | 711 |
| 延べ語数の級別割合 | 100% | 8.5% | 3.1% | 14.2% | 15.7% | 58.6% |
| 異なり語数 | 456 | 69 | 25 | 92 | 105 | 165 |
| 異なり語数の級別割合 | 100% | 15.1% | 5.5% | 20.2% | 23.0% | 36.2% |

# ４．級別語彙･文法事項の特徴と用法

## 4.1　国際交流基金他（2002）の選定方法および基準

では、各級および級外の語彙は、それぞれどんな特徴を有し、どのように使用されているのであろうか。その特徴・用法に触れる前に、まず国際交流基金他（2002）による級別語彙・文法事項の選定の方法および基準を見ておこう。

### 4.1.1　3-4 級の初級語彙・文法事項

3-4 級の語彙は、「外国人日本語能力試験」の「4 級…初級前半終了程度」、「3 級…

初級終了程度」という認定基準に基づいて、日本国内外で多く使用されている初級用日本語教科書、上位 11 種を基礎資料として選定されている。

4 級語彙は、対象資料のうち 4 種類以上の教科書の前半に共通して提示されている語彙から 800 語と、「ありがとうございます」などの「あいさつ語等表現」の 21 項目から成る。3 級語彙は、上記資料の 4 種類以上の教科書の後半に共通して提出されている語彙 1500 語と 4 級語彙とを合わせた計 2,300 語、および 32 項目の「あいさつ語等表現」である。

3-4 級の文法事項は、「比較的広範囲に用いられている 8 種」（国際交流基金他、2002:121）の初級教科書を基礎資料とし、その半数以上の教科書の前半に提出されている項目が 4 級、後半の項目が 3 級とされている。3-4 級レベルでは、構文・文型、活用、機能語（助詞・助動詞・接辞）の 3 つの文法事項が「きわめて重要な学習事項」（国際交流基金（2002:147）であると考えられている。

### 4.1.2　1-2 級の中・上級語彙・文法項目

1-2 級語彙の選定では、日本語教科書は基礎資料として用いられていない。代わりに、一般社会、日本語教育、学校教育（中学・高校）における 7 種の語彙使用調査が基礎資料として用いられ、固有名詞や擬態語・擬声語、古典語、各種特殊語彙など [6] を除く語彙が選定されている。

1 級語彙としては、以下①-③の資料の異なり語数約 8,300 語から約 6,700 語、④-⑦の資料から約 1,100 語の計 7,800 語を含む 1 万語が選定されている。2 級の語彙には、1 級語彙のうち①-③の資料の 2 種以上に採録されている約 3,600 語と、その他の 1 級語彙の約 1,200 語の計 4,800 語を含む 6 千語が選定されている。

①『日本語教育のための基本語彙調査』（1984 年国立国語研究所編）6,060 語
②『日本人の知識階層における話し言葉の実態』（1980 年）5,341 語
③「3,4 級出題基準」作成のための提出語彙調査により得られた語　4,487 語
④『分類語彙表』（1964 年国立国語研究所編）32,600 語
⑤『外国人留学生の日本語能力の標準と測定に関する調査研究について』（1982 年外国人の日本語能力に関する調査研究協力者会議）5,167 語
⑥『中学校教科書の語彙調査Ⅱ』（1987 年国立国語研究所編）
使用度数上位 3,290 語
⑦『高校教科書の語彙調査Ⅱ』（1987 年国立国語研究所編）
使用度数上位 3,067 語

1-2 級レベルの文法事項としては、「～に関して」「～に至るまで」といった、助詞、助動詞が複合的に用いられる「高度な〈機能語〉の類」（国際交流基金他 2002;147）が主で、他には小数の敬語が挙げられる。活用、構文/文型として特定されているものはない。機能語の 1 級・2 級の区別には、はっきりとした基準はなく、中級の教科書、学問的な内容を含む書物・文学作品等から各種雑誌、新聞を対象に行った用例調査における使用頻度などを参考にして、「微妙なニュアンスを含み、用法の習得が難しいもの」「硬い文体に限って用いられるなど、文体的な特徴の強いもの」（国際交流基金他 2002:159）が 1 級とされている。

### 4.2　4 級:日常生活のための基本語・基本文法

前述の国際交流基金他（2002）による選定基準を踏まえて、前章で取り上げた AJ 素材(3)講義「環境政策」に使用されている 4 級の語彙・文法項目を例に挙げ、その特徴を考えてみよう。以下にその主な語彙を示す。

（１）日常生活のための基本語彙

1) 動詞 :見る、来る、する、なる、知る、いる、言う、できる、ある、出す、出る、答える、聞く、作る、わかる、食べる、置く、買う、勉強する、死ぬ、とる、たつ、使う、生まれる、つける、きる、etc.
2) 名詞・形式名詞:大学、授業、先生、言葉、英語、意味、話、問題、私、お父さん、皆さん、みんな、人、家、うち、自分、目、肉、バター、魚、海、風、雨、水、物、車、デパート、お金、時間、年、道、県、国、前、中、もの、だけ、ぐらい、方、本当、etc.
3) 時の副詞: 昨日、午後、毎年、-年、-週間、先週、毎日、今、はじめて、もう、たぶん、もっと、etc.
4) 数詞、助数詞:千、百、万、本、人、台、一番、二つ、三、-匹、-個、-分、-がた、etc.
5) 形容詞・形容動詞:ない、良い、悪い、大きい、甘い、遅い、少ない、新しい、元気、大きな、-たい、

（２）文法・文型事項

6) 助詞:が、を、に、で、の、と(名詞の等位接続)、は、も、か、ね、から、
7) 接続詞、接続助詞: て、とき、そして、また、-たり、でも、
8) 助動詞:です、ます、だ、た、う、(-て)おく
9) 指示語:この、これ、そこ、その、あの、それ、そう
10)疑問詞:何、どう、いくら、どれ、なぜ、どの、いつ、
11)応答詞、感動詞:え、じゃ、じゃあ、

以上の語を見る限り、専門分野の講義で使用されている語とは想像できないであろう。講義といった、AJ の典型的な音声言語素材においても、日常生活のための基本語彙と文法事項から成る 4 級語彙が延べ語数で 6 割以上も占める。異なり語数も 226 種で、総異なり語数 716 の 31.6%を占め、AJ 素材の重要な基礎的語彙になっている。この割合は先に示したように、文字言語素材においても同様の傾向を示している。このことから、AJ の言語能力には 4 級の基本語彙および文法事項の運用能力の養成が必要不可欠であることが改めて認識される。

### 4.3　3 級: 論理的・分析的表現のための基本語・基本文型

講義「環境政策」に使用されている 3 級の語彙・文法事項は、4 級ほど多くない。延べ語数で全体の 13.5%、異なり語数で全体の 14.7%を占める 105 種である。しかし、3 級の語彙・文法事項は、AJ の 1 大特徴と考えられる論理的思考を表現するための語彙・文法事項という観点からすると、以下のような分類が可能である。

（１）思考、学問領域に関連する表現

意見、計画、答え、研究、講義、会、会議、小学校、中学校、科学、技術、

経済、産業、空気、点、-について、思う、考える、見える、-わけだ、

（２）日常生活を越えた外部社会を表す表現

社会、市民、アジア、アメリカ、世界、国際、関係

（３） 口語的な対応表現を４級語彙にもつ文語的表現

利用する(使う)、行う(する)、出発する(出る)、危険(危ない)、-ぬ(-ない)、-ずに(-ないで)

（４）前件と後件の関係を示す表現（原因・理由、条件、逆接等の接続的表現）

-ので、-ため、-けれども、-けれど、-けど、-のに、-ば/-たら/-と(条件)、-の/-こと/-ということ(文の名詞化)、 それで、だから

（５）例示、引用の表現

たとえば、とか、と(引用)、というN、

（６）数量、頻度に関連する表現

億、倍、両方、ほとんど、だいたい、-ほど、-ばかり、増える、変わる、上がる、なくなる、-すぎる、

（７）強調、期待、予測、仮定に関連する表現

もちろん、やはり、やつぱり、特に、なかなか、なかなか、はっきり、もし

（８）時間に関連する表現

時代、最初、最後、-ばかり、今度、月、以内、以上、これから

（９）将来の動作・試みを表す補助動詞

-ていく、-てみれば＊

なお、補助動詞は、「-ていく」の使用頻度は高いが、その他は「-てみる」が「-ば」形で使用されているだけである。また、3 級の文法事項に多い敬語は、「-てくだされば」、「-ていただければ」という「-ば」形で、それぞれ 1 度ずつ使用されているだけである。このような AJ 素材に使用される文法事項とその使用頻度については今後の研究課題として、ここではこれ以上触れない。

### 4.4　2 級語彙: AJ の基本的な「一般教養的語彙」

ＡＪの素材では、4 級語彙を除くと、2 級語彙の占める率が延べ語数、異なり語数ともに最も高い。「講義」でも、延べ語数で全体の 16.6%、異なり語数で全体の 32.7%、234 種を占める。

2 級語彙には、漢字 2 文字の基本的な漢語が最も多く、2 級語彙の大半を占める。3 級語彙と比較すると、日常生活での使用頻度は高くなく、アカデミックな内容で抽象的意味合いを持つ語彙が多い。また、後に述べる 1 級、級外の語彙と比較すると、ある領域の専門性を示唆するような専門語彙ではないが、アカデミックな教養の高さを表現する、言わば「一般教養的語彙」だと言えよう。

（１）2 文字漢語

① 漢語名詞

地球、環境、博士、講演、中心、人間、目標、人生、国民、立場、確率、結論、方法、公害、対策、現実、程度、気候、大気、制度、結果、酸性、土地、森林、海洋、種類、段階、政府、企業、意思、責任、方向、国家、世紀、都市、住宅、

財産、役割、被害、部分、民間、商品、製品、一部、会計、利益、基盤、地域、情報

②「2 文字漢語＋する」動詞

議論、援助、反省、否定、比較、自殺、汚染、納得、実行、意識、調査、評価、行動、批判、要求、省略、実現、発見、影響、協力、管理、決定、努力、解決、参加、発展、使用、改善、拡大、発達、予測、生産、循環、建設、貢献、成立、注目

③ 形容動詞

重要-、確実-、最低-、温暖-、可能-、明確-、単純-

④「2 文字漢語＋的/性」

抽象-、基本-、具体-、一般-、平均-、可能-

⑤ 副詞(＋に)

今日(こんにち)、現在、当時、今回、年間、結局、大分、絶対、実際、全般、非常、急激

（２）漢語の接辞

⑥ 接尾辞

-論、-化、-面、-上、-病、-頭、-省、-者、-部、-頃、-後、-量、-率、-値、-兆、-円、-高、-分、-界、-州、－型、-年生、-番目

⑦ 接頭辞

数-、各-、再-

（３）他の級に対応表現をもつ語

⑧ 口語的な対応表現を 3 級語彙に持つ文語的な和語表現

暮らし(生活)、新たな(新しい)、問う(質問する)、-やら(とか)、-なり(や)、

⑨ 漢語の対応表現を 2 級以上の語彙に持つ和語動詞、形容詞、形容動詞

減る(減少する)、守る(保護する/守護する)、譲る(譲渡する)、訴える(訴訟する)、間違う(誤解する)、嫌う(嫌悪する)、任せる(委任する)、関わる(関係する/関連する)、延びる(延期する/延長する)、伸びる(成長する)、求める(追求する)、売れる(販売される)、育つ(成長する) 、びっくりする(驚嘆する)、豊かな(豊富な)、貧しい(貧乏な)、-方々(人たち)

（４）一般的に使用される外来語

⑩ プラス、サービス、リットル、レベル、グループ、ヨーロッパ、エネルギー、パーセント、

（５）文語的な文法事項

⑪ 談話構造を示す接続詞

次に、つまり、実は、ただ、一方、さらに、逆に、ところが、同時に、そこで、

⑫ 助詞相当語

-に対して/対する、-によって/よる、-として、-にとって、

⑬ その他

たとえ-ても、単なる、先ほど、かなり、より-

### 4.5　1 級語彙:高度な「一般教養的語彙」

1 級語彙は延べ語数、異なり語数ともに使用頻度が低い。「講義」でも、延べ語数で全体の 3.1%、異なり語数では全体の 8.4%の 60 種である。

2 級語彙と同様、「一般教養的な語彙」が大半を占めている。しかし、2 級語彙との違いを強いてあげるとすれば、「および、-べし」など、より硬い書き言葉的表現や、「政策、国連、視点、行政」など、「環境政策」の講義の専門性を示唆するような漢語語彙が見られるようになる点で、それが教養の高さをより一層表現しているのではないかと考えられる。

（1）高度な一般教養的語彙

① 漢語名詞

政策、国連、視点、行政、市場、酪農、部門、福祉、人材、施設、給食、比率、方式、主体、犠牲、運輸、根拠、利潤、業者、取引、成果、実態、死、主、

②「2 文字漢語＋する」動詞

開発、処置、導入、関与、対応、廃棄、破壊、補助、向上、変動、蓄積、認識、処置、運送、投入、補充、補強、提供

③ その他:漢語形容動詞・副詞・接辞、外来語、複合動詞、文語的な和語

貧困、多様、従来、スト、ビジネス、ホール、ラベル、-的、-系、結びつく、受け入れる、ふまえる

（2）文語的な文法事項

および、むしろ、-べし、仮に、

### 4.6　級外:特殊語彙と専門的語彙

級外の語彙は、特に異なり語数において、1 級語彙より使用頻度が高い傾向が見られる。「講義」では、延べ語数では全体の 3.0%で 1 級語彙と同じくらいであるが、異なり語数では全体の 12.7%を占める 91 種である。級外に認定された語彙を見てみると、以下のように分類される。

（1）特殊語彙

① 固有名詞(地名・人名)

地名:スウェーデン、ストックホルム、ベトナム、ナイロビ、リオデジャネイロ、メリーランド、中国、京都、阪神、神戸、滋賀

人名:モーリス・ストロング、カセム

② 外来語

レジュメ、アンディベロップ、ドル、エゴ、リストラ、サミット、フレーム、リッター、マーガリン、スティックホルダー、インタレスト、プロセス、メス、ライフスタイル、ヒアリング、アセスメント、マネジメント、トータル、ネットワーク

③ 擬態語　じわじわ

（2）意味の予測可能な複合的語彙

何かと、時に、戦後、両論、生み出す、-カ国、不幸せ、医学部、農学部、乳製品、決め手、意外と、見つけ出す、力づける、見出す、他方自治体、震度、やる気、資材、廃材、生み出す、数量、度合い

（3）専門性を示唆する語彙

定着、理事、便益、枠組み、農林水産省、厚生省、文部省、通産省、自治体、焼却、大震災、仮設、民生、興す、支援、過言、保全、潮流、指標、肥沃、生態

（４）専門分野の漢語語彙および外来語

議定書、狂牛病、排出、オゾン層、リオプラステン、フロン、ダイオキシン、エコ

### 4.6.1　地名・人名の用法

級外語彙は、延べ語数、異なり語数ともに、（１）の①に示した世界・日本国内の主要な地名や個人名などで、全体の 18.7%、2 割近くを占めている。地名、人名は、以下の「講義」の例に見るように、レジュメに記されていたり、あるいは板書されたりすることが多い。また、人名に関しては名前自体何度も繰り返されることが多い上に、肩書きと、何をする人かについて言葉を変えて繰り返し説明が入る。地名に関しては、それ自体がくり返されることは少なく、また外来語の発音は英語の発音に慣れている学習者にはかえってわかりにくいようだが、しかし「何年に、どこで、何が行われた」という構文を把握してさえいれば、地名であることは容易に想像される。

「講義」スクリプト

・・・・・1 ページのレジュメを見てもらいますと、地球環境保全政策の国際的潮流と、いうことで、昨日、に、モーリス・ストロング博士がですね、立命館アジア太平洋大学に来て、で、今日午後は、立命館大学の方に、えー、モーリス･ストロング博士が行って講演をされます。このモーリス･ストロング博士が中心になって、1972 年に国連人間環境会議がスウェーデンのストックホルムで行われました。

### 4.6.2　専門語彙の用法

専門分野の難解な漢語および外来語は、量的には極めて少ない。その上、講義では一般に日常的に耳慣れない漢語系語彙やカタカナ語彙のキーワード的な専門用語は教員自身が難解だと強く認識しているため、そのまま使ったのでは日本人学生にも理解されないだろうという配慮が働く。その結果、必ずといっていいほど板書したりレジュメに記載したり、あるいはその用語を簡単に説明したり言い換えたりなどのメタ言語 [7]を使用して理解させようとする傾向が見られる。たとえば、以下の「講義」では「リオプラステン」という語を、例を挙げつつ何度も繰り返し説明している。しかも、メタ言語には 2 級以下の容易な語彙を使用して理解を促進している。

えー、その 2 ページに見てもらいますと、今度 2002 年の 9 月にリオプラステンというのがあります。え、昨日行われた、えー、APU での、えー、会議ではですね、講演では、このリオプラステンに向けての一つの、えー、皆さんの若い人の意見を聞こうというような形で、モーリス・ストロングさんが APU に、ま、来られて、えー、来たわけです。・・・・・・・

1972 年、1992 年のことをですね、ふまえて、やはり枠組みを作って実行しようというだけでは環境はよくならないと。もうちょっと現実的に目を向けなければいけないというので、リオプラステンでは、もう少し環境というのを具体的に考えようと、いうことで、えー、具体的な環境のサービス、たとえば水の問題をで

すね、一人、一日 2 リッター飲める人がこの地球上でどれくらいおるかと。現在、約 15 億人の人が 1 日 2 リッターの水を飲めずに 2 週間以内に死ぬ可能性、危険性があると、いうふうにいってます。・・・・・

西條(1999)では、メタ言語 [7]を含む談話のほうが日本語学習者にも理解されやすいことを報告している。上記講義は一般日本人学生を対象とした講義であるが、専門教員によっては、受講者に留学生が多い場合は留学生に配慮した、つまり聴衆に合わせた講義を行おうとして無意識のうちにメタ言語を多用し、理解を促進している傾向が見られる。

文献の場合も、講義などの音声資料ほどではないが、メタ言語の使用が認められる。また、文献の読解の場合は、2 級程度の日本語能力があれば辞書を引いて調べることも可能である。さらに、たとえば「議定書」のように、専門用語の構成要素自体は「議論」、「決定」などの２、3 級語彙の漢字であることが多く、意味も推測可能な語彙が多い。つまり、２級程度の語彙および文法・文型知識があり、その運用能力があれば、大意はほぼ推測可能であると考えられる。

AJ 素材の級外の語彙には、擬態語・擬音語の使用はまれである。また俗語、縮約語、音変化した語もこの講義ではほとんどない。この点においては、日常会話よりむしろ聞き取りが容易であると考えられる。

## ５．おわりに

本稿では、AJ の音声・文字言語素材に使用される語彙は以下のような特徴を持っていることを明らかにした。

①1 級、級外の語彙は、延べ語数、異なり語数ともに少ない。

②4 級の基本語彙が延べ語数の過半数を占めている。

③4 級の語彙には、構文理解の基礎となる文法・文型事項が多く、延べ語数が多いため、文章・談話の大意把握の要になっている。

④3 級語彙は、延べ語数、異なり語数は 2 級ほど多くはないが、論理的・分析的思考を表現するための基本語・基本文法が多いため、AJ のキーポイントの意味理解に主要な役割を果たしていると推察される。

⑤2 級語彙は、AJ の素材において延べ語数、異なり語数ともに最も多く、一般教養的な基本的漢語が多い。2 級語彙によりアカデミックな教養の高さを表現していると考えられる。

⑥1 級語彙には、専門性を示唆するような一般教養的語彙が多い。2 級語彙より硬く、どの領域でも使用されることから、1 級語彙は教養の高さをより一層表現していると考えられる。

⑦級外語彙には、固有名詞・外来語の特殊語彙、2 級以下の語による複合語が多い。その他には高度な一般教養的語彙と専門的語彙を示唆する漢語・外来語が含まれる。このような難解な語彙自体の使用頻度は低い上に、使用されたとしてもその語自体に言及するメタ言語、例示が、2 級以下の語彙で行われ、理解を促進して

いる。

以上から、アカデミック･ジャパニーズには、1 級･級外の専門語彙や難解な語彙知識よりも、むしろ 2 級以下の基本的な語彙･文法事項のほうが重要であると考えられる。2 級以下の基本的な語彙･文法事項がしっかり定着し確実に運用できれば、7 割ほどは理解できる。そして、論理的・分析的・批判的に理解する能力(2004b) が加われば大意はほぼ把握できるものと推察される。ただし、日本語破裂音の弁別能力に問題を抱える中国語系話者の場合、どんなに文字・語彙知識が高くても聴解力は劣る傾向が見られる(山本 2004c)[8]。したがって、この最も基本的な日本語破裂音の弁別能力が習得されていない場合は、その養成が何よりもまず重要であると言える。AJ の言語能力およびその測定方法については、さらに多数のデータを収集し検討していく必要があるが、それは今後の課題としたい。

**注**

1) 専門教員に対するアンケート調査による。この結果については山本(2003)で報告した。
2) 山本 (2004b)では、「アカデミック・ジャパニーズ」は「大学・大学院等での学術分野のみならず、卒業後の職業生活や社会生活で営まれる知的活動を通して使用される高度な日本語」であると定義している。本稿でも、この定義に従う。
3) 国立国語研究所 (1960, 1963) は、「話しことば」の「対話」と「独話」という二分法により別々に資料収集してそれぞれ文の文法的特徴を捉えている。しかし、両者の対比を行っているわけではないし、また日常会話と講義、講演といったジャンルの区別をしているわけでもない。音声言語のジャンル別分類、および各分類の構文・文体的特徴については、山本(1993)で言及している。
4)「非言語的情報」、「パラ言語的情報」は、研究者によって指し示している内容が異なるようである。前川・北川(2002)に詳しい。
5) 級別の語彙構成は、川村よし子氏開発の「リーディングちゅー太」によって、級別に解析を行った。この解析では、固有名詞(地名・人名)、複合語、俗語、縮約語、音変化した語、間投詞など特定の文法項目や、分節の間違いにより判別不能とされた語などはすべて 1-4 級以外の「級外」の語彙として分類される。これらの「級外」として判別された語彙のうち、専門教育出版(1998)の『A～D レベル別 1 万語語彙分類』によって分類可能なものはすべて修正し、級別に再分類した。縮約語、音変化した語は、変化前の辞書形にして分類した。
6) 1・2 級の選定基準について詳しくは国際交流基金他(2002, p. 51)を参照されたい。
7) 西條(1999)では、メタ言語を「談話において、自分あるいは他者の言ったこと、これから言うことに言及する表現」と定義している。
8) これまで実証的な研究は行われていないが、ベトナム語話者も中国語系話者と同様、日本語破裂音の習得が困難で聴解力が劣ることが観察されている。

**参考文献**

門倉正美(2003)『日本留学試験が日本語教育に及ぼす影響に関する調査・研究――国

内外の大学入学前日本語予備教育と大学日本語教育の連携のもとに』平成 14～16 年度科学研究費補助金（基盤研究(A)(1)一般,）研究成果中間報告書
国際交流基金他（2002）『日本語能力試験　出題基準［改訂版］』凡人社
国立国語研究所（1955）『談話の実態』秀英出版
国立国語研究所（1960）『話しことばの文型（1）－対話資料による研究』秀英出版
国立国語研究所（1963）『話しことばの文型（2）－独話資料による研究』秀英出版
国立国語研究所（1980）「日本人の知識人階層における話し言葉の実態」文部省科学研究費特定研究『言語』報告書
西條美紀(1999)『談話におけるメタ言語の役割』(風間書房)
専門教育出版(1998)『Ａ～D レベル別１万語語彙分類』
前川喜久雄(2004)『日本語話し言葉コーパス』国立国語研究所
前川喜久雄・北川智利(2002)「音声はパラ言語情報をいかに伝えるか」『認知科学』VOL.9 No.1,46-66.
山本富美子（1994b）「話し言葉の分類、及びその類型的特徴について-日本語学習者のための上級聴解テクストとしての観点から-」名古屋大学言語センター紀要『日本語・日本文化論集』第 2 号,1-22.
山本富美子(2001)『国境を越えて』本文編、新曜社
山本富美子(2002)「アカデミック・ジャパニーズのシラバス形成に向けて」『日本留学試験の「日本語」を考える』平成 14 年度秋季日本語教育学会パネルセッション
山本富美子(2003)「留学生に求められる日本語能力と大学学部教学体制の国際化」門倉正美、前掲報告書所収
山本富美子(2004a)「アカデミック・ライティング教育の課題－学部留学生への指導－」平成 16 年度春季日本語教育学会春季大会パネルセッション
山本富美子(2004b)「アカデミック・ジャパニーズに求められる能力とは― 論理的・分析的・批判的思考法と語彙知識をめぐって ―」東京外国語大学留学生日本語教育センター移転記念シンポジウム
山本富美子(2004c)「日本語談話の聴解力と破裂音の知覚との関係―中国北方方言話者と上海語方言話者に対する比較調査より―」『音声研究』第 8 巻第 3 号:67-79, 日本音声学会